



クロカンズ。ベンチャリストたちの競演。

SIMEX CUP

今や日本一オフロード熱の高い、火の国・熊本。そんなホットな熊本阿蘇のオフロードコース夢大地にて「サイメックスカップ」が初開催された。マシンも走りもエキサイティングな猛者たちが鎬を削った！

サイメックスカップ in 夢大地

開催日：2月22日（日） 開催場所：熊本阿蘇・夢大地
主催：トレイル 協力：サイメックスカップ実行委員・夢大地
フォト：相場恒弘 レポート：編集部

4駆に夢中の漢たちの
激しく熱い「頭脳戦」

去る2月22日（日）、熊本県阿蘇の「夢大地」というオフロードコースにて「SIMEX CUP」が開催された。この大会は、SIMEX（サイメックス）タイヤを輸入販売する、トレイル主催の第1回大会。

今や日本でもっともオフロード競技が盛んであり、クロカンオンクをもっとも正しい使い方をしているのが九州地方だ。中でも火の国・熊本のオフローダーたちはとにかく熱い。いつでもオンク遊びができる環境下において彼等のオフロードドライビングスキルは非常に高い。

そんな「熱い」熊本で開催された「第1回SIMEX CUP in 夢大地」には、総計26台の選手達とギャラリーで約130名程が阿蘇の大地に集結。このサイメックスカップは、タイヤ外径33インチを基準に、アンダークラス、オーバークラスと2クラスに分けて、3つのSS（スペシャルセクション）にて競技を行なわれた。競技の方法は、1セクと2セクは通過ポイントと完走ポイントでの合算ポイントで、3セクはタイムトライアルによりタイムポイントで、その3つのSS全てのポイント合計にて順位を決定するというもの。

OFFROAD EVENT REVIEW



総計26台のマシンが阿蘇の夢大地に集結。ほとんどのエントリーがジープ、ジムニー、ランクルを駆る。ランクル勢はナマラルはもちろんヨンマルも多く、いまだ現役でクロカンに挑む姿はととても誇らしい。

ジャングルを思わせる泥濘地となったコース

1セクは比較的短くロックが多少ある平坦なコースだったが、スタートして間もなく大きなロックが選手達を苦しめる。そして2セクが始まる頃には、朝の曇りから天気が変わり雨が降り出してきた。足元はドロドロになり競技が始まると雨も強く降りだし、阿蘇特有の「黒土の泥濘地」に変化し、まさにサイメックスカップに相応しい状況となったのだ。あまりにもドロドロのため、スタートラインに着くのが困難な選手も出始める状況となっていた。

この2セクはロングコースで、スタート位置からゴールまでの高低差が約40メートル近くあり、さらに起伏もありドライビングテクニックが要求される設定となっていた。また、コース内にはポーナスポイントが設定されるなど、ポイントをどれだけ取れるかどうかで勝敗を大きく左右するコースとなっていた。このセクションでは、ほとんどの選手が白熱したドライビングテクニックを披露。しかし、完走できたのは1台のみという結果からも非常に難しいセクションだったということだ。

このセクションでは、スタック車が予想よりも多く終了時間が遅れたため、3セクは大幅な時間短縮となった。従って下りのタイム



トライアル形式への変更を余儀なくされた。スタートとゴールの高低差は、これも約40メートルあり下りのキャンパー地形のため、アクセルをどれだけ踏めるか、そして車両コントロールがどれだけできるか、さらにドライバーの勇気を問われるセクションとなった。2台のみが途中スタックの為タイムオーバーとなったが、その他の選手は無事にゴール。

午後から降り続いた雨と寒さ、悪条件のコースで終了したときには選手は皆疲れきっていたようだったが表情からは満足感が伝わってきた。第1回サイメックスカップは天候状況が変わった為、各セクションでのポイントをどれだけ取れるかで勝敗を大きく左右する結果となったのだ。



1セクが終わる頃には雨が降りだし、路面はドロドロに。阿蘇特有の黒土の泥ねい地へ変貌し、トラクションタイヤで完全武装したエントラントたちを苦しめた。まともに掛けないほどの、まさに「悪路」だった。



サイメックスに相応しい泥地獄



RESULTS

33インチアンダークラス
 1位：塘口研吾 総得点740
 2位：高椋和幸 総得点700
 3位：安永拓海 総得点700

33インチオーバークラス
 1位：坂口澄男 総得点790
 2位：坂井保之 総得点690
 3位：本田真之 総得点660

SIMEX CUP

